

なでしこ銀

米に1-2、W杯との2冠逃す



サッカー女子で銀メダルを獲得し笑顔の日本代表「なでしこジャパン」
ウェンブリー競技場

下野新聞

しもつけ
発行所 下野新聞社
下野新聞社
電話 028-625-1111
郵便番号 370-0001
読者室 028-625-1179
(受付 月～金・午前10時～午後6時)
編集局 028-625-1121
販売部 028-625-1120(販売)
事業部 028-625-1134(事業・教育)
営業部 028-625-1133(広告)
下野新聞社ホームページ
http://www.shimotsuke.co.jp/

号外

下野新聞1週間無料お試しキャンペーン実施中!
お申し込みは
0120-810081

安藤、祈り届かず 鮫島、必死の守り

【ロンドン共同】ロンドン五輪第14日の9日、サッカー女子の日本代表「なでしこジャパン」はロンドンの「聖地」ウェンブリー競技場で行われた決勝で、米国に1-2で敗れて銀メダルだった。女子ワールドカップ(W杯)で優勝した翌年に五輪を制覇するという史上初の偉業は逃したが、男女を通じて五輪で初の銀メダルを獲得した。米国は3連覇。

▽女子決勝

米 国 2(1-0)1日 本

▽得点者【米】ロイド2(前8分、後9分)【日】大儀見(後18分)

【ロンドンで本紙・藤井達哉記者】8万人を超える観客の魂に響く激闘だった。勝負はいつだって紙一



試合終了後、抱き合う熊谷(4)と安藤。左はワンバック

重た。なでしこジャパンは敗れ、鮫島彩、安藤梢の挑戦は幕を閉じた。そして、胸に銀メダルが輝いた。

金メダルにこそ届かなかったが、鮫島は「この仲間とここまで戦えたのを誇りに思うし、幸せ」と話し、安藤は「最高の仲間とやってきた結果、メダルを取れてうれしい」と笑った。

どちらにも何点入っていないもおおしくなかった。「まだまだ日本はチャレンジャーだと感じた」と鮫島は言う。安藤は「米国相手に成長している部分をみせられた」。どちらも正しい評価だ。

ただ、2人には別の悔しさも残る。鮫島は米国の攻撃を必死に防いだが、後半32分に途中交代。「今大会調子は良くなかった」と正直に語る。安藤は決勝戦、出場がなかった。

北京五輪のサポートメンバーだった鮫島にとって、ロンドンでは4年間の成長をみせる場というだけではない。チームは東日本大震災で傷ついた日本に勇気を与

えるという宿命的な役割を背負い、中でも東京電力に所属していた鮫島は象徴的な存在に見られた。

「つらさを感じたことはない。あのこと(震災)があつてからずっと変わらないうちが持ちこたえている。オリンピックでも同じ」。期待を真正面から受け止めて戦い続けてきた。

3位決定戦で敗れ、メダルを逃した北京から4年。悔しさをぶつける舞台で、安藤は途中出場が多かった。しかし、16歳で代表入りし、「なでしこ」と名がつく以前、注目も集まらない時代から、支え続けてきた役割は大きな価値を持つ。「過去の先輩の戦いがある、今がある。みんなそうしてきたように、今大会は自分がやれることを精いっぱいやった」。また一つ、歴史を積み重ねた。

鮫島は「私と梢ちゃんみたいに世界で戦う選手が栃木から出てきてくれたらうれしい。刺激を届けられるようずっと走っていきたい」。安藤は「今回の悔しさを自分自身の成長につなげたい」と新たなスタートを誓う。

多くの人に勇気と感動を与えたなでしこジャパン。銀メダルで今までの努力が何ら色あせはしない。日本中がなでしこを、県民が2人を温かく迎えることだろう。

鮫島彩(さめしま・あや) 1987年生まれ。宇都宮市出身。田原中常盤木学園高(宮城)。東京電力、米国のモンペリエからチャレンジャーの仙台に移籍。DF。2008年日本代表初選出。11年ワールドカップ優勝。163センチ、53キロ、25歳。

安藤梢(あんどう・こずえ) 1982年生まれ。宇都宮市出身。宇都宮女高・筑波大学院。独・デュイスブルク。FW。高校2年で日本代表入り。アテネ、北京両五輪代表。北京五輪4位。2011年ワールドカップ優勝。164センチ、57キロ、30歳。